

11/15 14:40

(公開不可)

取扱注意

暫定版

情報共有 (2枚非管理用)

NISA 到着 → プレス発表会

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成23年11月15日(火) 11:00～11:30

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約15名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリング結果について
- 当社福島第一原子力発電所1～3号機における事故時運転操作手順書の公開により安全上の支障が生じることとなる情報等の報告について
- 1号機～6号機本館 サブドレン水位計測結果(10月分)

より、11月12日の福島第一原子力発電所におけるマスコミへの現場公開時に、TV各局および海外メディアが乗車したバスにおいて測定した、最大の空間線量および300マイクロシーベルトを超える線量を確認していた事を報道陣に十分周知できなかった事、その内容を11月14日の統合会見中に質問に回答できなかった事について説明。

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 細野大臣に同行し現場を公開していただいた際に、TV各局が乗車したバス車中で最大の線量および300マイクロシーベルトを超える線量を教えていただけなかった事について、3／4号機サービス建屋付近の線量は測定していなかったのか。

A. 測定はしていたが、どこで測定値をお知らせするのか事前の打ち合わせが不十分で明確でなかった事と、測定担当者が報道陣への対応に追われていたため、失念してしまったことによるもの。

Q. 3／4号機サービス建屋付近の線量の高低についても分からなかったのか。

A. 1mSv/hである事は計測していた。

Q. 認識していたが、車内では低い方の数値のみ発表したということか。

A. その通り。誠に申し訳ないと思っている。

Q. 現場を公開される前にJヴィレッジで撮影禁止地点を3箇所説明されたが、翌日映像を確認したところ、3箇所以外にも2／3号機のシャッター付近等撮影を中断させられた場所があった。事前に説明なく、突然撮影を禁止したのはなぜか。

A. 核物質防護上の理由から、一般論として撮影を禁止している場所がある事については事前にJヴィレッジなどで説明しているかと思う。具体的には、警備、進入防止策や経路となるルートが分かるようなものは撮影を遠慮していただくよう説明している。

Q. マスコミとしても準備があるので、事前に説明すべきではなかつたか。

A. Jヴィレッジで事前に、より詳細に説明すべきだったと思う。今後現場を公開する際にはよくご説明していきたい。

Q. 今回の事故時運転操作手順書に関する報告は、10月14日に報告したもの以外について、改めてマスキングした理由を報告したという認識でよいか。

A. 今回の報告は、各号機のマスキングした箇所に関して、7分類のマスキングした理由のいずれに該当するかを付記して報告した。

Q. 前回報告したものに、理由を付記して報告したということか。

A. その通り。

Q. 前回の報告に比べて、シビアアクシデントの手順書におけるマスキング割合が減少したことだが、事象ベース、徴候ベースに関してはどうか。

A. 事象ベースと徴候ベースのマスキング割合に変更はない。シビアアクシデントに関しては、大部分が共同研究で開発したものであり、マスキング箇所が多くなっているが、理由を付記するにあたって、マスキング箇所の細分化に伴い文書のタイトル等は対象から外したことで、割合が1割ほど減少している。

Q. 7分類の中で、特に多いマスキング理由は。

A. 基本的には、知的財産の項目の4, 5番、犯罪の予防等の項目の6, 7番の理由に該当するものがほとんどである。

Q. 前回報告の際、原子力安全・保安院が公表した中で、6, 7番（犯罪の予防等）に該当する箇所はないとのことだったが、改めて今回6, 7番に該当する箇所があると報告した理由は。

A. 原子力安全・保安院が公益性の観点から公開ものであるが、手順書は操作の内容を示すものであるので、事業者側の操作が事前に判明することは犯罪予防において支障をきたすと考えている。

Q. 非常用高台ポンプのバックアップは、消防車以外に炉注水ポンプは使わないのか。

A. 常用高台ポンプのバックアップとして、非常用高台ポンプを使い、さらにそのバックアップとして消防車を準備している。非常用高台ポンプの次のバックアップが消防車という意味である。

Q. 非常時の注水におけるバックアップは30分あれば切り替えられるのか。

A. その通り。

Q. 消防車は高台に配備されているのか。

A. その通り。

以上

11/15 20:30 ~~会見下り~~

取扱注意

暫定版

情報共有

非音源メモ

NISA刊 ← プレス会見

(2枚)

プラント状況(本店レク)議事メモ

日時：平成23年11月15日(火) 18:00～18:20

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約15名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百三十五報)
- 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について(第二百二十八報)
- 茨城県沖における海水中の放射性物質の核種分析の結果について(続報36)
- 福島第一原子力発電所沖合における海底土の放射性物質の各種分析の結果について(続報40)
- 福島第一原子力発電所取水口で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について(11月14日採取分)
- 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について(11月14日採取分)
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水各種分析結果
- 当社福島第一原子力発電所における各種分析結果の確報版について(10月16日～10月31日採取分)

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

- Q. 「中期的安全確保の考え方について」において、温度計に関しては等価回路の結果を鑑み、20度程度の不確かさを考慮することだが、主な要因としては、中継端子台と補助導線の絶縁低下が原因なのか。
- A. 報告書にもイメージ図があるように、温度計は2種類の金属を貼り合わせる熱電対で測定するタイプ。格納容器内が高温になったことで、鞘の中や端子台で絶縁不良、または短絡を起こし、通常の電圧が測定できない状態になっていると考えている。

Q. 端子台から出ている鞘のイメージを教えてほしい。

A. 1cm程度の金属の筒のようなものが、端子台まで伸びているイメージ。

Q. 等価回路の検証はいつ頃から始めたのか。

A. 夏場から検証しており、10月頃に評価が進んだ。

Q. 1, 3号機のガス管理システム完成の目処は。

A. 3号機は、原子炉建屋内が高線量であることから、機器取り付けの具体的なスケジュールは未定である。また1号機は現在機器の設置工事を実施しており、12月上旬頃までには設置できると考えている。

Q. 1~3号機のガス管理システムに再臨界監視のための放射線検出器を取り付ける予定との事だが、現在の工事進捗状況は。

A. 放射線検出器については、現在設備等の設計および製作を進めているところである。設置完了の具体的な時期は未定であるが、極力早く設置すべく取り組んでまいり。

Q. ガス管理システム運用後に放射線検出器の運用を開始するのか。

A. 放射線検出器は、今後ガス管理システムと併用で使用していく予定であり、2号機のガス管理システムに先行して設置する予定。また1, 3号機ガス管理システムについては、ガス管理システムが完成するタイミング、またはそれ以降に放射線検出器設置する予定である。

Q. 施設運営計画にあるように3年程度炉心が安定した状態を維持できると考えているのか。

A. その通り。施設運営計画に定めている作業を行程通りに進めることで3年間の安全は確保できると考えている。

Q. 8月に原子力安全委員会が提出した資料では、3月15日の2号機の爆発後に敷地内の線量が上昇している。その後、2号機の爆発の可能性が低いとの見解が示されたが、線量が上昇した主な原因は何か。

A. 3月15日の6時12分に大きな音は確認しているが、その後の地震記録などから、大きな音の原因は4号機の爆発だと考えているが、2号機も炉心損傷を起こしているのは事実であり、放射性物質が2号機から放出されたことについては否定できるものではないと考えている。ただし、放射性物質がどのようなタイミングで放出されたかについては定かではない。

Q. なぜこのタイミングで線量が上昇したと考えているか。

A. 2号機のプローアウトパネルの開放や当時の風向きなども影響していると思われるが、どういった経緯で放射性物質が放出されたかは調査中。

Q. 2号機のプローアウトパネルが開いたのはいつか。

A. プローアウトパネルが開放された時間は定かではないが、3号機が爆発した際に、2号機のプローアウトパネルが開いているのを確認している。

以上